

広島平和大道（百メートル防火道路建設の悲劇）

村上 喜代治

昭和二十年四月、広島市立商業学校に新規入学した一年生は、広島市南観音町にあった旧広島市立商業学校（現在の観音高校）の広い校舎で入学したが、二年生以上の上級生は学徒動員を受け、大半は三菱重工業の広島造船所と広島機械製作所に分散配置されていたので殆どの新規入学の一年生は上級生と顔を合わせていない。

学徒動員解除により学校に残留していた上級生は二十人程度で、私と大門及び浜田君が最上級生であった。

昭和十六年十二月八日、アメリカ、

ハワイ真珠湾にあるアメリカ海軍基地への空襲で開始された大東亜戦争（後太平洋戦争と呼ばれる）も連合軍の総反撃を受け、既に日本本土の諸都市に対するB-29による爆撃が開始され東京は甚大な損害を受けていた。三月中旬アメリカ海軍艦載機グラマンF6F三百機が呉海軍基地と在泊の連合艦隊に対して空襲を行い、陸及び艦船対航空機の熾烈な戦闘が行われ呉海軍基地は大損害を受けた。また四月早々にはアメリカ五十八機動部隊が沖縄に上陸作戦を敢行するなど戦局は悪化の一途をたどった。

四月以降も空襲は激化し多くの都市が灰燼（かいじん）に帰す状態であった。

新入生に与えられた作業は「天地返し」と呼ばれる作業で、校庭の掘り返しによる「いも」畑の造成と「さつまいも」の植え付け作業であった。これは昭和二十年の暮れの食料確保の為に行われた緊急の処置である。当時の広島は食料配給も充分でなく食料は危機的状況であった。

やっと、「天地返し」の作業が済んだ時、広島市内全中等学校生徒で学徒動員を受けていない全生徒（殆どの学校は二年生以上が動員を受けていた）に対して白神社境内に集合が命ぜられた。

白神社の広い境内に集結した広島市内全中等学校は、広島一中・広島二中・県商・県工・市中・市商